

アジア太平洋機械翻訳協会 (AAMT) より AAMT長尾賞を受賞いたしました

日本の国際化をお手伝いして45年
AAMTと共に歩んで20年

株式会社インターグループ



日時: 2011年6月13日(月)

会場: ホテルアジュール竹芝

アジア太平洋機械翻訳協会/AAMT(Asia-Pacific Association for Machine Translation)とは

1991年に「日本機械翻訳協会」として設立、1992年6月17日事業の拡大をめざして「アジア太平洋機械翻訳協会」と名称変更。機械翻訳システムの健全な発展と社会における適切な普及の促進を図るために、機械翻訳システムにかかわる研究開発者、製造販売者および利用者が情報の交換を行い、世界のこの分野の進歩に貢献することを目的としています。

※AAMTホームページ <http://www.aamt.info/japanese/index-j.htm>

AAMT長尾賞とは

2005年、初代会長の長尾 真先生が、ノーベル賞に匹敵する「日本国際賞」を受賞され、同賞の賞金の一部をAAMTにご寄付され設けられた賞で、機械翻訳システムの実用化の促進および実用化のための研究開発に貢献した個人あるいはグループを表彰します。

長尾 真先生は、機械翻訳の権威で、自然言語処理・画像処理・パターン処理研究の世界を代表する第一人者で、京都大学総長を務められた後、現在は国立国会図書館長としてご活躍されておられます。

受賞理由と受賞者

受賞理由: 翻訳支援のためのシンプルでオープンな辞書仕様UTXを開発、公開し、機械翻訳精度の向上ばかりでなく、辞書の interoperability および翻訳支援へも有効な手段を広く提供している。今後、ローライゼーション、オープンソース、教育、行政、医療、法律などのさまざまな分野で活用が期待されるとともに、国際標準となる素地を備えている点で高く評価できる。

受賞者: 機械翻訳課題調査委員会 共有化・標準化ワーキンググループ

UTX(Universal Terminology eXchange)とは、アジア太平洋機械翻訳協会(AAMT)が策定している、翻訳ソフトのユーザー辞書共通フォーマットです。2009年に、ユーザー辞書の標準化を目指すオープンなUTX仕様のひとつとして、シンプルなタブ区切り形式であるUTX-Simpleの仕様が策定されました。UTXは、対訳形式の用語の知識を辞書として共有することで、翻訳ソフトの翻訳精度を大きく向上させます。ユーザーの視点から、シンプルで「作りやすく、使いやすい」ことを目指しています。

機械翻訳とインターグループとの関わり

インターグループではパソコンが普及する前の1980年代から京都大学の長尾真教授(当時)が進めておられた機械翻訳の国家プロジェクトに参画し、コンピュータメーカー様とコンピュータ翻訳の研究開発に関わってきました。現在もその取り組みは自然言語処理、音声情報処理業務に引き継がれ、公的機関や大手企業の研究開発をサポートし続けております。